

令和7年度 栄区精神障害者生活支援センター収支決算書
(総括版)

自令和7年4月1日 至令和8年3月31日

(単位:円)

科目	予算額	決算額	決算額のうち 法人負担金額	差 額	備 考
Ⅰ 収入の部					
1 指定管理料収入(当初)	88,924,000	88,924,000		0	
2 指定管理料収入(変更)				0	
3 法人負担金				0	
4 相談支援事業に要した交通費収入				0	
5 自立支援給付費収入		1,806,711		▲ 1,806,711	
6 食事サービス収入		1,373,200		▲ 1,373,200	
7 入浴・洗濯・インターネットサービス収入		58,250		▲ 58,250	
8 その他の実費収入など(横浜市障害福祉施設 等物価高騰対策支援金等)				0	
収入合計	88,924,000	92,162,161		▲3,238,161	

Ⅱ 支出の部					
戻入精 算	1 人件費	68,414,000	65,056,844	0	3,357,156
	非常勤職員	14,173,000	12,707,643		1,465,357
	アルバイト	4,441,000	5,417,482		▲ 976,482
	調理アルバイト	3,032,000	3,981,791		▲ 949,791
	嘱託医賃金	989,000	318,420		670,580
	法定福利費	8,032,000	7,464,906		567,094
	退職金給与引当金	936,000	1,030,680		▲ 94,680
	福利厚生費	170,000	143,543		26,457
	労務厚生費	60,000	66,000		▲ 6,000
	2 施設管理費	7,750,000	7,124,558	0	625,442
	光熱水費	4,300,000	3,294,905		1,005,095
	庁舎管理費	3,500,000	3,887,903		▲ 387,903
	利用者負担金充当金	▲50,000	▲58250		8,250
	3 運営費	7,000,000	6,537,440	0	462,560
	旅費	350,000	319,983		30,017
	消耗品費	500,000	340,535		159,465
	印刷製本費	250,000	179,336		70,664
	修繕費	1,000,000	1,084,409		▲ 84,409
	通信運搬費	1,100,000	1,004,008		95,992
	賃借料	1,900,000	1,977,624		▲ 77,624
	備品等購入費	400,000	256,103		143,897
	保険料	300,000	358,416		▲ 58,416
	雑費	1,200,000	1,017,026		182,974
	4 本部繰入金	5,760,000	5,760,000		0
	5 食事サービス費の支出	0	1,379,200		▲ 1,379,200
	6 その他の実費からの支出	0	0		0
	支出合計	88,924,000	85,858,042	0	3,063,677

Ⅲ 戻入の部			
人件費戻入精算分	3,357,156		
戻入合計	3,357,156		

令和 7 年度横浜市栄区生活支援センター事業報告

栄区の高齢化に伴い、地域に潜在する精神障害者やその家族の状況を早期に把握するため、区内地域ケアプラザごとに担当職員を配置し、緊密な連携体制を構築した。全5ヶ所のケアプラザとの定例会や、センターへの来所が困難な層に向けた全6ヶ所での出張相談を継続的に実施した結果、相談件数は延べ15件、うち7名がセンター利用へ繋がりに達し、前年度と同様成果を得ることができた。特に、区役所やケアプラザからの依頼として年々増加している「親なき後を見据えた独居移行ケース」に対しては、生活相談や居場所の提供、自立生活アシスタント、通院同行等の包括的な支援を展開し、なかでも単身者の生活を支える食事サービスの利用数は顕著な伸びを見せている。また、次世代や権利擁護の課題にも注力し、こども家庭支援センターとの「親が精神障害、子が発達障害」等の世帯に関する定期的な情報共有体制の構築や、本年度3名の成年後見制度利用への進展、弁護士との連携調整など、支援の幅を広げた。さらに自立支援協議会精神部会等を通じた「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム」の多職種連携や、地域ケアプラザ等での精神障害者支援に関する講義活動（啓発活動）を積極的に行い、精神保健福祉の中核的な役割を遂行した。今後も地域ケアシステムの役割として、障害者とその家族が住み慣れた地域で安心・安全に生活できる体制の深化を目指していく。

■ 事業内容

- 1 開所日数 : 308 日
- 2 登録者数 : 1,427 名 (男性 821 人、女性 606 人)
- 3 来館者数 : 7,068 名
- 4 事業実施状況
 - (1) 本体事業
 - ア. 日常生活支援
電話相談 5,637 件、 面接 749 件、 フリースペース対応 2,008 件
訪問・同行 168 件、 その他 56 件
 - イ. 有料サービス
夕食サービス 2,581 名、 入浴サービス 244 名、 洗濯サービス 189 名、
 - ウ. 嘱託医相談
相談回数 12 回 相談者 16 名
 - エ. カウンセラー相談
相談回数 12 回 相談者 20 名
 - オ. 自主事業
 - * 定例事業
利用者ミーティング (12 回 : 141 名)、 姫の会 (3 回 : 26 名)、
リハビリ講座 (3 回 : 21 名)、 昼カラ (8 回 : 53 名)
スポーツレク (2 回 : 26 名)、 就労座談会 (1 回 : 15 名)、
かいがーず (5 回 : 36 名)、 音楽サークル (5 回 : 23 名)
* その他イベント等
初詣 (15 名)、 プチサマーフェスティバル (30 名)、 大花火大会 (21 名)、
かき氷大会 (24 名)、 クリスマス会・ランチ会 (50 名)、 いたちまつり (510 名)、
バラエティー卓球 (11 名)、 栄区民まつり (10 名)、 豆まき (8 名)

カ. 普及啓発活動

関係機関・団体を対象とした、生活支援センターの事業説明および精神障害への理解を深めるための勉強会を実施。野七里地域ケアプラザ職員向けに、精神障害への理解と適切な対応方法に関する勉強会を生活支援センター職員が講師を務め、専門的知見の共有を図った。また、後見的支援制度あんしんマネージャー研修において、生活支援センターの機能や地域における後見的支援と生活支援センターの役割について講義を行い連携強化に努めた。

キ. その他

- ・令和7年度は、家族会・区役所・生活支援センター共催の精神科家族教室を実施。講師に招き、一般家族の方向けに「家族が学ぶ訪問看護の利用について」「訪問看護の利用手続きについて」を実施し17名参加された。
- ・中野地域ケアプラザエリア本郷第三地区ボランティア部会にて、精神障害者への理解を深める勉強会を開催した。区福祉保健センター、基幹相談支援センター、生活支援センターの3機関が合同で企画。当日は「精神障害者について地域で受け入れるには」をテーマに、生活支援センター利用者3名が登壇し、自身の経験や想いをお話しいただいた。ボランティア部会20名が参加し、当事者の声を直接聴く貴重な学びの機会となった。

(2) 自立生活アシスタント事業／自立生活援助事業

地域において単身で生活する精神障害者(自立生活アシスタント事業該当者)の方々の安定した生活を維持出来るよう支援した。支援に当たっては、専任職員だけでなく支援内容によって他の職員及び関係機関との連携、協力のもと事業の充実を図っている。センター内で自立生活アシスタントチームとして2ヶ月に1回のミーティングを実施、利用状況・目的・ケース問題を共有し、問題解決に向けて話し合いをしている。自立生活アシスタント利用終了者については利用者及び関係機関と相談の上、センター本体事業へと繋ぎ、引き続きご本人様が相談できるよう対応した。

尚、自立生活援助事業については区役所と連携し実施について検討しているが、本年度の利用実績無い。

○支援内容

- 1 金銭管理(計画性の指導・助言・管理)・・・あんしんセンターとの連携
- 2 衣食住支援・・・ヘルパー事業所との連携
- 3 コミュニケーション支援
- 4 健康管理、服薬指導及び管理・・・訪問看護、病院との連携
- 5 住環境整備(部屋の片づけ、引越しの援助、)・・・ヘルパー事業所、不動産業者との連携
- 6 生活のリズム作り
- 7 精神の安定
- 8 定期的訪問(生活状況の把握、精神的安定)
- 9 その他日常生活における問題の相談

○登録者数 7名 (相談中 3名、 終了者 5名)

(3) 退院サポート事業／地域移行・地域定着支援事業

令和7年度は令和6年度に増えたケースが退院となり、グループホームや生活訓練施設と連携を行い地域での生活を定着させる支援を多く行ってきた。昨年度課題になっていた病院との協働活動について令和7年度は二つの病院と活動を行った。福井記念病院では金沢区生活支援センターと共同で入院患者へ向けて退院サポート事業の説明や地域での暮らしについて啓発を行い、退院促進を目指した。舞岡病院では戸塚区生活支援センターと社会資源マップを完成させ、病院と地域の機関を結び付けるきっかけづくりを目指した。この二つの病院から来年度も協働活動を行っていききたいとの声があったため引き続き活動を行っていく。昨年と同様、地域移行・定着事業の新規依頼が滞っているため今後も医療機関との関係性を強化し退院の依頼が来るように努めていきたい。

○支援者数 5名（相談中 0名、退院後フォロー 1名）

(4) 計画相談事業（指定特定相談支援事業及び指定一般相談支援事業）

- ・区役所障害者支援担当と連携し、障害福祉サービスを利用する利用者の方々を対象に適切な社会資源の活用及び関係機関との連携を行い、利用者が安心して日常生活を過ごせるよう支援した。
- ・区内精神障害者対象の計画相談事業所が少ないため、区内の事業所4ヶ所、区外で栄区をエリアとしている近隣区の事業所2ヶ所と集まり「栄区計画相談連絡会」を実施、情報共有、ケース共有・検討など定期的な打合せを行っている。

○総件数 25件（特定相談件数 25件） 相談中 7件

(5) 防災訓練

- ・小菅ヶ谷地域ケアプラザと共同で消防避難訓練を第1回令和7年12月24日、第2回令和8年3月25日、共に地震発生に伴う施設内の火災発生を想定し実施する。又、両職員による避難経路確認及び消火設備確認・消火器訓練を行った。
- ・福祉避難所開設訓練
令和8年3月9日、栄区福祉保健センター高齢・障害支援課、小菅ヶ谷地域ケアプラザ、生活支援センターと共同。「区・施設合同福祉避難所開設、受け入れ訓練」を実施。訓練概要は①横浜市の福祉避難所開設・受け入れについて、②被災地の福祉避難所の状況、③要援護者の受け入れ事例検討・福祉避難所に必要な機能の配置及びゾーニングの検討・災害時のトイレの使用ルールの検討をグループワークで検討した。

■法人及び関係機関等会議及び行事 等

(1) 横浜市

- ・横浜市生活支援センター施設長会議・実務者会議、生活支援センター連絡会、三機関合同連絡会、三機関定例カンファレンス、成年後見サポートネット会議、アウトリーチ支援会議、地区支援チーム会議、福祉避難場所連絡会、栄区地域自立支援協議会・精神部会・相談支援部会、栄区精神保健福祉業務連絡会、各種研修会、パラフェスタ

(2) 区社会福祉協議会・地域自治会・栄区内事業所関係等

- ・社協専門機関部会・障害者支援分科会、南部地域若者支援連絡会、さかえ会（家族会）、家族教室、サポートセンター経運営委員会、みちくさみち理事会、こだちの会運営委員会、小菅ヶ谷ケアプラザ運営委員会、小菅ヶ谷つながるプラン全体会・分科会、移動情報センター推進会議、後見的支援室とんぼ報告会、地域ケア会議、栄区社会福祉大会、小菅ヶ谷地域敬老会、障害者週間キャンペーン、すぺーすモモ虐待防止・身体拘束等適

正化委員会、とんぼ（後見的支援制度）定例会、自殺対策キャンペーン、栄区ネットワーク会議、各地域ケアプラザ定例会、豊田地区障害児者連絡会（COCOMIMI）、栄区民祭り、栄区新年祝賀会、e g a oフェスタ、次世代交流サロンひだまり、

（３）市精連関係

- ・市精連研修会

（４）法人関係

- ・法人理事会、評議員会、所長会議
- ・研修委員会、広報委員会、虐待防止等対策委員会、感染症対策委員会、身体拘束等適正化委員会、生産性向上委員会、
- ・法人全体研修、法人研修、階層別研修

■ 研修会参加

（１）外部研修

- ・支援、援助技術関係（１２回）、　・医療、薬関係（４回）、　・災害関係（１回）、
- ・メンタル、リスク関係（５回）、　・その他、一般関係（４回）
- ・虐待防止、身体拘束適正化研修（２回）、　・センター連絡会新任研修（４回）
- ・個人情報保護（１回）、　・障害福祉、制度（１回）、

（２）法人関係

- ・法人研修（１２回）

■ 実習生受け入れ

（１）精神保健福祉士関係実習　：　８名

（２）看護関係　：　５２名

（３）その他　：　４名

以上